

「歯を守れ！ 予防歯科に命を懸けた男」を読んで

つきやま歯科医院 総合診療医 梶谷 啓介

カンブリア宮殿で放送された内容に加えて、放送に入りきれなかった内容をディレクター目線で客観的に書かれた興味深い本でした。

私たちが普段当たり前のように行っている MTM というのが、それを受けたことがない患者さんにとっていかに新鮮なものであるかというのを改めて知りました。唾液検査を含む種々の検査を行い、自身の口腔内の情報を客観的に認識してもらい、患者教育により疾患の進行を防ぐにはどのようにすればいいかという知識をつけてもらい、口腔内の価値を高め、治療が終了したらメンテナンスに通い自身の口腔内を誰よりも深く知る担当衛生士と一生を通じてお付き合いする。普段当たり前のように我々がしていることは、今までそのような医療を受けてきてない患者さんにとってはとても新鮮で自身の口腔内の価値を高めるきっかけになる医療なのでしょう。担当ディレクターも取材を通してこのような医療があるということをより多くの人に知ってもらいたくて今回本を書かれたのではないのでしょうか？

日吉のセミナーには数々参加してきて、本に書かれている内容もある程度は知っているものですが日吉が取り組んできた学校教育に関しては今まで詳しくは知りませんでした。なるべく多くの天然歯で一生過ごすためには20歳までにいかに歯を削らずに予防できるかが大きな鍵となります。義務化されている学校健診で行うことは虫歯があるかないかのチェックだけで、もし虫歯と診断されたら近くの歯医者で治療される。そうすると本来なら予防できた歯も **repeat restoration cycle** の輪の中に入ってしまう可能性もあります。

熊谷先生が、虫歯があるかないかではなく、虫歯を作らないための教育を学校で行ってきたことはまさに本質をついており、そのような教育を行うことで生徒だけでなくその親、学校の職員も巻き込んだ予防の輪を酒田市に根付かせてきたことは大きな実績の一つだと思います。今後は自費メンテナンスで企業をも巻き込んで予防の輪を広げていこうとされている。その熊谷先生のぶれない信念にあらためて心打たれた本でした。